

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京大学	整理番号	O04
プログラム名称	数物フロンティア・リーディング大学院		
プログラム責任者	河野 俊丈	プログラムコーディネーター	儀我 美一

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、社会数理学の理念共有のもとに正副指導教員体制と支援体制が整備され、中間評価や学外評価における指摘への意欲的な取組と改善がなされ、新設の特別科目群、研究集会・グループワーク・海外派遣等からなる国際性と企業ニーズに基づく産学連携を重視した横断的教育プログラムが完成されるとともに、計画力・俯瞰力審査を含む QE、2 段階審査、学位論文と「社会数理実践研究」の成果をまとめた副論文を要件とする特色ある学位審査制度が構築され、充実した指導がなされたことは高く評価できる。本プログラムの参画専攻における博士課程定員未充足の改善に向けた貢献や、企業連携先発掘への多大な努力も評価できる。今後、データサイエンスや AI の急速な発展の中での「本質を見抜く数理学」の発展や、社会の諸分野の課題への先端数学理論適用に関する方法論の確立や体系化・普遍化について一層の努力が望まれる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、学生は実社会の課題への数学応用可能性の認識を確実に高め、キャリアパスに対する視野を拡大しながら趣旨に沿って成長していること、また、経済的支援、実践教育、国際体験、海外研究者や企業技術者との人的ネットワーク構築に高い満足度を示しており、研究視野拡大、修士論文の欧文学術誌掲載率倍増等の教育効果が現れたことは高く評価できる。人的基盤を継続的に発展させる修了者ネットワーク構築も評価できる。一方で、分野横断的なリーダーシップの発揮や学生間で切磋琢磨させる仕組みの効果はやや限定的であり、数学専門家ならではの数学応用開拓の実績と新規性・有効性や、社会数理関係への波及効果は不明確である。有効性の客観的評価や成果の社会への積極的な公開と PR に一層の努力が求められる。意識改革が進み企業、官公庁への就職実績が増加したことは評価できるが、今後 PD からの転身も見込まれるとはいえ産官等への就職実績は目標をかなり下回った点は改善が望まれる。

事業の定着・発展については、本プログラムは全学的な「東京大学ビジョン 2020」の改革理念形成に貢献し、複数研究科連携の国際卓越大学院として現状規模で継承展開する計画である。コースワークや社会数理実践研究の継続実施、後継体制整備のための社会連携講座の新設を含む産官との連携強化、若手人材確保の方針策定等の検討が進展しており、学生への奨励金等の経済的支援の継続が決定され予算確保も進められていることは評価できる。今後の更なる具体化と有効化が期待される。